

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は緩やかな改善が続いている。

- ・観光は増加している。
- ・個人消費は持ち直しの動きが緩やかになっている。
- ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

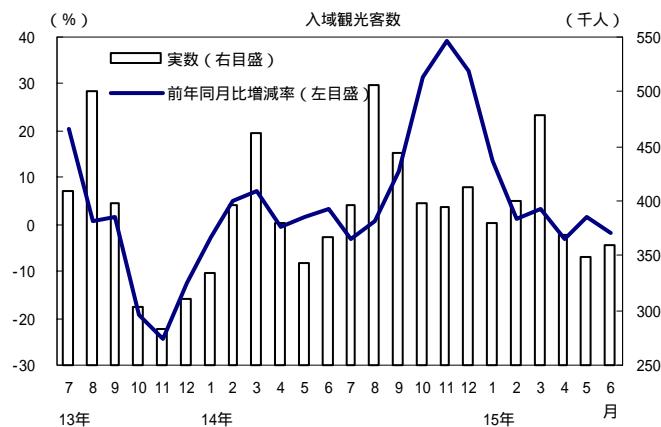
前回調査からの主要変更点

	前回（平成15年5月）	今回（平成15年8月）	
個人消費	持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが緩やかになっている	

1. 観光及び企業動向

（1）観光は増加している。

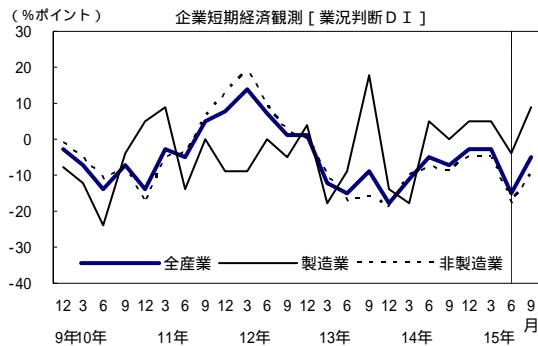
入域観光客数は、4月は昨年運航されていた台湾からのクルーズ船が、今年は運航されていなかったことなどから、外国人客が減少し、前年を下回った。5月は航空路線の便数増加やSARSの影響による海外旅行からの振り替えなどにより国内客が増加し、同月の過去最高を記録した。6月は各種キャンペーンの効果などにより国内客は好調に推移したものの、SARSの影響による海外路線の運休や減便などにより、外国客が減少したため、全体で前年を下回った。ただ、水準としては、同月の過去2番目の記録となっている。なお、7月の入域観光客数は、前年同月比13.8%増加の451,300人で同月の過去最高を記録し、4・7月期でみると前年同期比で2.8%増加している。また、4・6月期における主要ホテルの客室稼働率については、那覇市内のホテルは前年を下回ったが、リゾートホテルは前年を上回り、高水準で推移している。



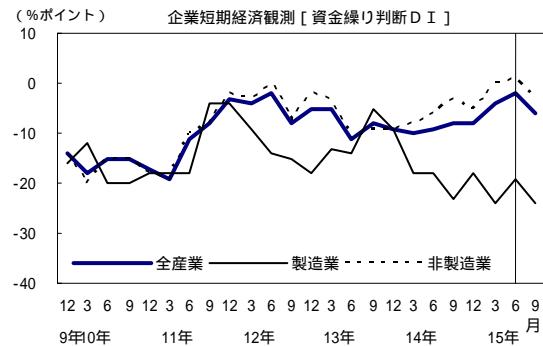
（備考）入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

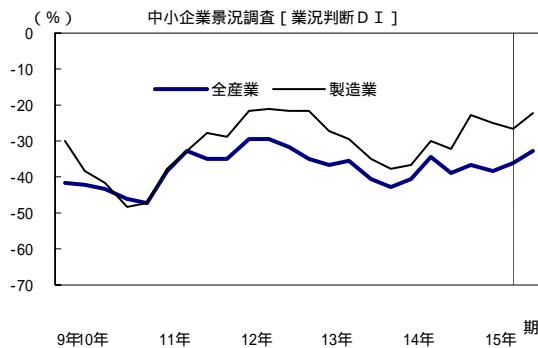
企業短期経済観測調査 [業況判断D I 、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年期は見通し。
九州地区のD I。

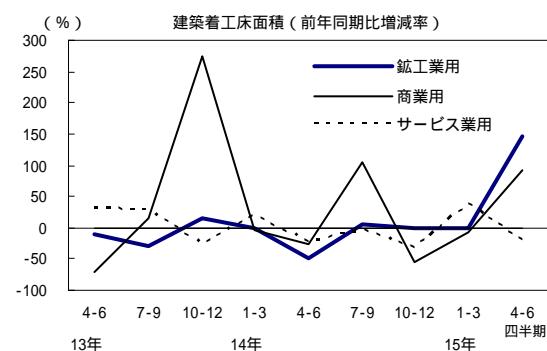
景気ウォッチャー調査 (7月調査)[企業動向関連 (現状判断)]

「新店舗やリニューアル店舗のオープン、中元シーズン、クーラー等の入荷等々で、例年になく物量が増加している(輸送業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「引き合い案件は定期的にあるものの、旧サービスから安価な新サービスへの切替えが大半を占めることから、全体として売上増にはつながっていない(通信業)」など「変わらない」とする回答もみられた。

(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を下回っている。

	14年度実績 (前年度比増減率、単位: %)		15年度計画
	全産業	製造業	非製造業
全産業	12.9 (-8.2)	2.2 (-1.5)	
製造業	35.1 (-11.2)	79.4 (-5.9)	
非製造業	19.2 (-8.0)	8.1 (-2.3)	

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが緩やかになっている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

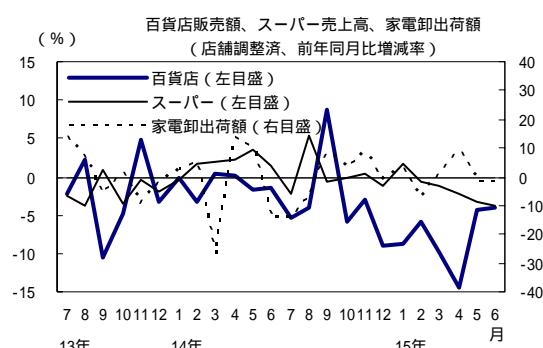
百貨店は、大型スーパーやアウトレットモールの出店の影響が続いている中で、4月は主力の衣料品が低調で前年を大幅に下回った。5月、6月は企画セールの効果があったものの前年を下回った。

スーパーは、大型店の新規出店の影響が続いていることや衣料品の単価下落により、前年を下回った。なお、全店ベースでは前年を上回っている。

家電は、パソコンやオーディオ関連が前年を下回ったものの、液晶テレビ、プラズマテレビや猛暑によるエアコンの好調により全体で前年を上回った。

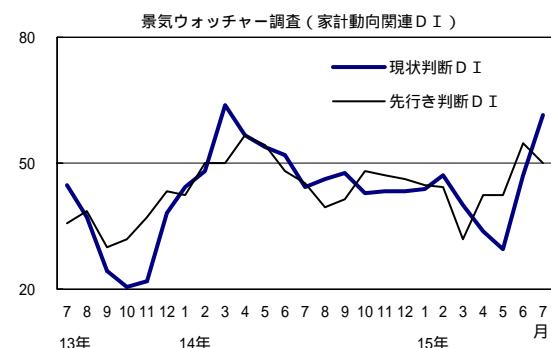
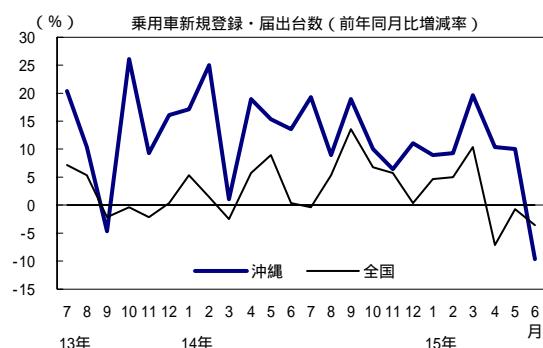
景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「従来、低単価傾向にあり、価格値下げを据え置いていたのだが、低料金にしたところ来客数が増加している(ゴルフ場)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位: %)			
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
百貨店	0.9	6.3	8.3	7.7
スーパー	3.4	0.4	0.0	3.1
家電卸出荷額	5.2	3.1	0.7	1.8
乗用車	16.2	9.2	14.4	2.0
景気ウォッチャー	46.0	43.2	43.8	36.8

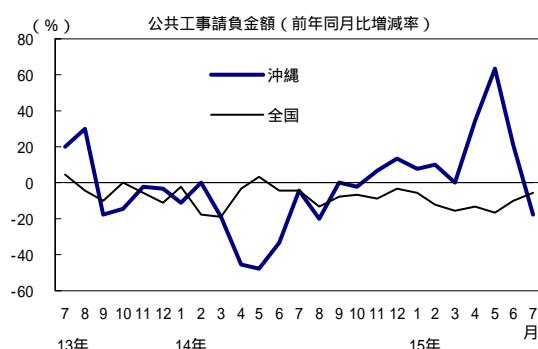
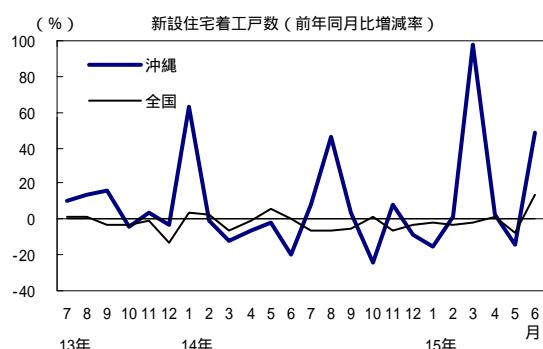
(備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は中銀銀行調べ。
2. スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、賃家が上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は年度累計でみると前年を上回っている。

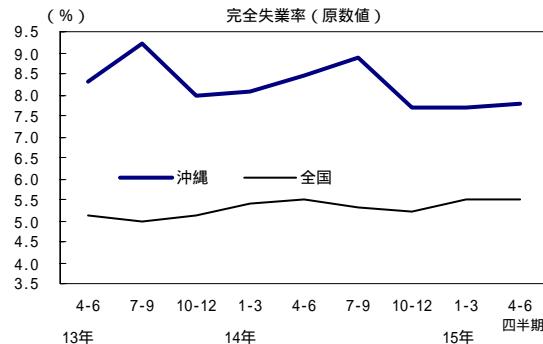
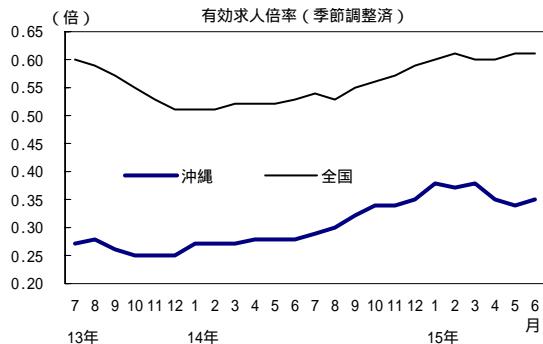


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考)沖縄県企画開発局統計課「労働力調査」により作成。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断)]

「主婦等の求職者が希望する土日休暇や時間帯、企業が求める技能・経験等の双方の条件においてミスマッチが生じている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数	33	26	26	34	15
(前年比)	5.7	13.3	7.1	30.8	21.1
負債総額	73	85	207	121	30
(前年比)	50.7	16.2	191.6	117.9	53.5



景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・来客数、売上額、客単価ともに3か月前と比較して上昇傾向にある。その要因としては、猛暑によりエアコンの販売台数が増加し、パソコン関連機器の売上が比較的順調に推移したことが挙げられる(家電量販店)。

<先行き>

- ・モノレール開業のイベントがあるが、その効果は一時的なものに過ぎず、消費を左右させるまでにはいかない(コンビニ)。

